

(2/26)
朝日

無戸籍 高齢女性餓死

息子「生活費つき水と塩だけ」

大阪・高石

大阪府高石市は25日、市内の高齢女性が9月に餓死したと明らかにした。同居していた息子とともに戸籍がなく、息子は市などに「生活費が底をつき、水と

塩だけで生きていた。戸籍がないので市役所に相談しにくかった」と説明しているという。市は親子の存在を把握できていなかった。

市などによると、9月22日朝、同市綾園3丁目の住宅で、女性と2人で暮らしていた息子が「母親が亡くなった」と近所の男性に知らせた。府警の司法解剖では死後数日とされ、栄養不足による餓死と判断された。息子も衰弱しており入院したが、命に別条はないという。

女性は死亡時78歳だったとみられ、息子は49歳だと話しているという。同居していた女性の内縁の夫が2

016年に亡くなり、その後は遺産で生活していたが、次第に困窮していったとみられる。

女性は今春ごろから、近所の人たちに「夏に引っ越す」と伝え、家財道具などを譲っていた。9月から電気がつかなくなったが、周囲は引っ越したと思っていたという。

法務省によると、何らかの事情で出生届を出せず、無戸籍になっている人は、11月10日時点で全国で909人。だが、民間支援団体「民法772条による無戸籍児家族の会」は、実際には約1万人にのぼると推計している。